

令和 4 年 5 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H04349

研究課題名（和文）東南アジア地域におけるエリート周流のネットワーク分析

研究課題名（英文）Network Analysis on Elite Circulation in Southeast Asia

研究代表者

HAU Caroline・Sy (Hau, Caroline Sy)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：70314268

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1997年から98年の東アジア経済危機以降の東南アジア地域、特にフィリピン、インドネシア、マレーシア、タイの政治経済システムの変容を、マクロ経済政策、安全保障政策、インフラ整備等の国家プロジェクトに関わるエリート・ネットワークの生成と変容の観点から分析することを目的とした。得られた主な成果としては、エリート・ネットワークが政治や経済の面での政策決定に及ぼしたのかを、特にテクノクラートや軍人に焦点を当てて明らかにしたこと、アメリカや中国、日本のエリートとのネットワークが地域における政治、外交、経済関係にどのような意味を持ったのかを明らかにしたことが挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で得られた成果の意義としては、1997年から98年のアジア通貨危機以降の東南アジア地域、特にフィリピン、インドネシア、タイ、マレーシアにおけるエリート・ネットワークの再編プロセスを、これら4か国の国内政治・経済の面からだけでなく、アメリカや中国、日本などの東南アジア域外の国との関係の面からも分析したこと、さらに過去20年のエリート・ネットワークの在り方を、より長期の20世紀初頭以降のそれぞれの国や地域におけるエリート・ネットワークの形成プロセスに位置づけ、その歴史的意義を明らかにしたことにある。

研究成果の概要（英文）： This study aimed to reveal the transformation of political and economic systems in Southeast Asia, especially the Philippines, Indonesia, Malaysia, and Thailand, after the Asian Financial Crisis in 1997 and 1998 by focusing on the formation and transformation of the elite network in the field of macroeconomic policies, security policies, and state projects such as infrastructure developments. This study clarified the role of the elite network, especially that of technocrats' network and military network, in political and economic policy making processes, and the impact of the network among Southeast Asian elites and American, Chinese, and Japanese elites on political, foreign, and economic relations in East and Southeast Asia.

研究分野：地域研究

キーワード：エリート周流 ネットワーク 比較研究 東南アジア 政治経済システム

### 1. 研究開始当初の背景

東南アジア地域の政治経済システムは、冷戦終結後のグローバル化の進展、中国に代表される新興国の台頭による地域の富と力のバランスの変化、1997年から98年の東アジア経済危機、さらには経済発展に伴う東南アジア地域各国内の政治、経済、社会動態の変化などの影響により、大きく変化しつつある。

これまで東南アジア地域のエリートについては、フィリピンの「カシーケ民主主義」論や「新家産制」論、「ボス支配」論、インドネシアの「国家のための国家 (state qua state)」論や「オリガーキー」論、タイ政治変動に関する(政治参加危機を契機とする)階級同盟・対立論、マレーシアにおける多極共存型民主主義 (consociational democracy) 論など、構造的アプローチで分析されてきた。これらのアプローチは、その性格上、きわめて安定的・固定的な「エリート周流 (elite circulation)」を前提として、各国の政治経済構造を分析しようとするため、近年は新しい「問い」を生むより、同じ「問い」を反芻する傾向に陥っている。その結果、こうしたパラダイムでは、近年のフィリピンの経済成長を支えたマクロ経済政策も、ダバオ出身のロドリゴ・ドゥテルテ大統領の登場も、海外送金の政治社会学的意義も説明できなければ、インドネシアにおけるイスラムを大義名分とするアイデンティティの政治の台頭も、「庶民」出身の地方政治家のジョコ・ウィドド大統領の登場も、ジャカルタ・バンドゥン高速鉄道プロジェクトにおけるインドネシアと中国の国営企業連携も、マレーシアで1MDB スキャンダルがなぜ国民戦線体制の崩壊をもたらしたのかも説明できない。

このような研究状況を鑑み、本研究は従来の構造的アプローチではなく、ネットワーク・アプローチを用いて、エリート周流と政治経済システムの変容を分析する。ネットワーク・アプローチを採用する理由は次の二つである。一つ目はネットワークに注目することにより、既存の制度や国境を超えたエリートの連携の動態を明らかにできることである。二つ目は、個々のエリートをネットワークの中に入れ込み、そこで果たしている役割を分析することにより、従来重視されていなかった人物の重要性が明らかになることである。

### 2. 研究の目的

本研究は(1)東アジア経済危機以降のグローバル化、中国の台頭、フィリピン、インドネシア、マレーシア、タイの新興国化によって、これら諸国の国際的・国内的政治経済社会的条件が大きく変化する中、(2)マクロ経済政策、安全保障政策、国家インフラ整備事業等におけるエリート連携に焦点を合わせ、政治エリート、経済テクノクラット、軍人、ビジネス・エリートなどが、国家と市場のインターフェイスで、また国境を超えて、どのような政策ネットワークを形成してきたかを明らかにし、こうしたダイナミックなエリートの周流と連携が各国の政治経済システムをいかに変容させつつあるかを分析することを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究は(1)先行研究のサーベイ、(2)各国での現地調査、(3)収集した資料やデータの整理・分析、(4)研究会での成果の報告・検討、(5)研究成果の公開・発信、の5つのプロセスで遂行される。各プロセスの具体的内容については以下のとおりである。

(1)先行研究サーベイ：本研究に関連する文献のサーベイをおこない、重要な研究については研究会で報告をおこない、研究参加者の間で共有する。

(2)現地調査：フィリピン、インドネシア、マレーシア、タイの政治家やビジネスマン、軍人、ジャーナリストなどにインタビュー調査をおこなうと同時に、新聞や雑誌の調査、アメリカを含む各国資料館や図書館、行政機関などが所蔵する資料の収集、さらには回顧録などの収集をおこなう。現地調査は初年度と平成32年度に集中的に行い、最終年度となる平成33年度には、研究成果とりまとめに必要となる追加調査を中心に実施する。

(3)資料やデータの整理・分析：各研究参加者はインタビュー調査で得られたデータの文字化、資料の整理・分析をおこない、対象国のエリート・ネットワークの解明と、政治経済システムの変容について検討する。

(4)研究会での成果報告・検討：現地調査や資料の分析から得られた成果は、研究会で報告し、参加者の間で共有・検討をおこなう。研究会には必要に応じて関連する研究者や実務家、行政官などを招聘し、議論をおこなう。研究会は毎年度、3回開催する予定である。

(5)研究成果の公開・発信：本研究で得られた成果は、『東南アジア研究』、『アジア研究』、『国際政治』などの国内学術誌や *Journal of Asian Studies*, *Southeast Asian Studies*, *Indonesia* などの国際学術誌への論文投稿、国内・国際学会での報告だけではなく、日本語・英語での単著・編著の出版や『中央公論』などの論壇誌や新聞への寄稿、公開シンポジウムでの報告などを通じて広く社会・国民に発信する。

#### 4. 研究成果

本研究で得られた主な成果は以下の5点である。

- (1) 東アジア諸国の経済発展と政治変動については、『究』(ミネルヴァ書房)連載の「オンリー・イエスタデイ」(2020年4月～現在、白石隆との共著)において、エリートのネットワークとその循環に焦点を合わせつつ、1997-98年の東アジア経済危機の分析を進めている。また、東南アジア研究におけるネットワーク分析の重要性を示すため、フィリピン、さらには東アジア全般にわたるエリート形成と循環に関する一連の英語論文を発表した。また、2021年には、独立以降、インドネシアのエリート、カウンターエリートとして登場した「45年世代」の形成前史を *The Phantom World of Digul: Policing as Politics in Colonial Indonesia, 1926-1941* (Singapore and Kyoto: NUS Press in association with Kyoto University Press, 2021)として発表した。
- (2) フィリピンのエリート周流については、特に21世紀に入り顕著になった持続的な経済成長や社会開発に注目し、それらに寄与した政策や政策当事者のネットワークに注目した。分析を通じ、6年毎に代わる大統領とは異なり、政権を超えて重用されるテクノクラートの存在が明らかになった。成果の一部は、「フィリピンの政治課題と国家建設」田中明彦・川島真(編)『20世紀の東アジア史 III 各国史東南アジア』として公表した。また、地方政治の変容についても、既存研究が強調してきた発展を阻害する要因を強調するのではなく、地方政治の変化に注目し、変化をもたらした政治家や起業家たちのネットワークを分析し、成果の一部を査読付き英文雑誌 *Southeast Asian Studies* の特別編集号“Faces of Local Transformation: Policy Coalitions and Socio-economic Development”として公表した。
- (3) インドネシア、タイのエリート周流については、日米とのトランスナショナルなエリートネットワークが持つ政治的な影響力とその変容について明らかにした。タイについてはタイのテクノクラートと日本との民間企業の間で構築されたネットワークが、クーデタという政治的断絶時において両国間の経済関係のみならず外交関係の安定に大きな役割を果たしたことを明らかにし、Aizawa, Nobuhiro, ‘The Japanese Business Community as a Diplomatic Asset and the 2014 Thai Coup d’État,’ in John D Ciorciari, Kiyoteru Tsutsui (eds.), *The Courteous Power: Japan and Southeast Asia in the Indo-pacific Era*, University of Michigan Press, 2021.として発表した。また冷戦期に米国が中心となって構築した東南アジアとのテクノクラートおよび軍人のネットワークの対テロ戦争期以降の変容について、新たに発展してきた社会起業家のネットワーク構築に注目し、その成果について Wilson Center Asia Program ウェブサイトにて2022年4月、一部公表した。(https://www.wilsoncenter.org/blog-post/networking-social-entrepreneurship-southeast-asia-young-southeast-asian-leaders)また、これら変容しつつあるトランスナショナルなネットワークの存在が有する地政学的な意義についても検討し、相澤伸広「インドネシアの西太平洋連合構想」北岡伸一編『西太平洋連合のすすめ—日本の「新しい地政学」』東洋経済新報社、2021年10月において、発表した。
- (4) マレーシアのエリート周流については、植民地期以降のマラヤ/マレーシアにおける政治エリートの生成と再生産の歴史を、エリートによる政治的な決定が国内行政や外交にどう影響するかを分析した。とりわけ、マレーシア人閣僚と中国政府・中国資本との紐帯が、いかにマレーシア政府の外交選択の幅を狭めたかを政府文書、国会議事録、新聞報道をもとに分析し、ある中小国において、(1)外交政策決定権力が行政の長に集中しており、(2)行政の長の権力維持が財の分配に高度に依存しており、(3)そうした分配資源を大国が提供する場合に、当該中小国の外交政策決定過程が、大国の意思に左右されることを明らかにした。
- (5) 東南アジア、東アジア地域の歴史的なエリート周流については、19世紀末から20世紀初頭の革命家のネットワーク形成に港市が果たした役割に焦点を当てて研究をおこなった。その結果、革命家、特にアンダーグラウンドで活動をおこなう革命家にとって身の安全を確保できることが何より重要であり、アジアの港市の中でその条件を満たす場所が政治的要因や政治指導者の政策、さらには都市そのものが持つ構造などによって移り変わっていったことを明らかにした。この成果は Onimaru, Takeshi. 2021. “Itinerary, Revolution, and Port Cities: Comparative Study on Maritime Port Cities as Arenas for Asian Revolutionary Movements,” in Shigeru Akita, Hong Liu, and Shiro Momoki (eds.), *Changing Dynamics and Mechanisms of Maritime Asia in Comparative Perspectives*, Palgrave Macmillan, pp. 213 - 233 として公表した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 白石隆、ハウ・キャロライン	4. 巻 109
2. 論文標題 オンリー・イエスタデイ(1) 『つい、この間』、世界と東アジアでは何があったか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 究	6. 最初と最後の頁 4 - 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木絢女	4. 巻 第3巻
2. 論文標題 マレーシアの国家建設—エリートの生成と再生産	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田中明彦・川島真編 『20世紀の東アジア史 第三巻』（東京大学出版会）	6. 最初と最後の頁 277 -332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Caroline Hau	4. 巻 21
2. 論文標題 Tales of the Unexpected, or The Art of Border-Raiding in a Time of Uncertainty	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Inter-Asia Cultural Studies	6. 最初と最後の頁 127-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Caroline Hau	4. 巻 68
2. 論文標題 Transregional Southeast Asia: Perspectives from an Outlier	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Philippine Studies: Historical and Ethnographic Viewpoints	6. 最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Caroline Hau	4. 巻 56
2. 論文標題 For Whom Are Southeast Asia Studies?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Studies: Journal of Critical Perspectives on Asia	6. 最初と最後の頁 59-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石隆	4. 巻 5月号
2. 論文標題 米中対立時代、日本の生存戦略	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 68-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 なし
2. 論文標題 フィリピンの政治課題と国家建設	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田中明彦、川島真 (編)、『20世紀の東アジア史 III 各国史2東南アジア』	6. 最初と最後の頁 35-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 10月号
2. 論文標題 中国の海洋進出とインド太平洋地域秩序の行方 ベトナムとフィリピンを事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 128-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke Takagi	4. 巻 15(2)
2. 論文標題 Comment on, Dutertenomics: Populism, Progress and Prospects	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Economic Policy Review	6. 最初と最後の頁 280-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 なし
2. 論文標題 植民地支配とナショナリズム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川中豪、川村晃一 (編)、『教養の東南アジア現代史』	6. 最初と最後の頁 25-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木絢女	4. 巻 し
2. 論文標題 マレーシアの国家建設：エリートの生成と再生産	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田中明彦・川島真編『20世紀の東アジア史』	6. 最初と最後の頁 277-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Caroline Hau	4. 巻 18
2. 論文標題 The Afterlives of Maria Clara	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Humanities Diliman	6. 最初と最後の頁 118-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Caroline Hau	4. 巻 7
2. 論文標題 Edel Garcellano, the Filipino Critic in a Time of War	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Entrada	6. 最初と最後の頁 217-243
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 なし
2. 論文標題 東南アジアの国民国家 何に注目し、どう論じるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 吉澤誠一郎 (監修) 『論点・東洋史学 アジア・アフリカへの問い158』	6. 最初と最後の頁 322-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 なし
2. 論文標題 フィリピンの地域主義外交と西太平洋連合	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北岡 伸一 (編) 『西太平洋連合のすすめー日本の「新しい地政学」』	6. 最初と最後の頁 79-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 135(10)
2. 論文標題 東南アジア諸国の対中戦略と 日本への新たな期待 フィリピン、シンガポール、ベトナムの選択	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 76-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke Takagi	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 Policy Making after Revolution: The Faces of Local Transformation of the Philippines	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 199-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木絢女	4. 巻 10
2. 論文標題 マレーシアの新型コロナウイルス対策にみる国家	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『マレーシア研究』	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木絢女	4. 巻 なし
2. 論文標題 マレーシアの外交・安全保障政策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北岡 伸一 (編) 『西太平洋連合のすすめー日本の「新しい地政学」』	6. 最初と最後の頁 201-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤伸広	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 インドネシアの安全保障観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『安全保障研究』	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 相澤伸広	4. 巻 なし
2. 論文標題 インドネシアの西太平洋連合構想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北岡 伸一（編）『西太平洋連合のすすめ—日本の「新しい地政学」』	6. 最初と最後の頁 48-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤伸広、ケオラ・スックニラン	4. 巻 68
2. 論文標題 一帯一路とラオスの経済関係多角化の悲願	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『アジア研究』	6. 最初と最後の頁 41-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nobuhiro Aizawa	4. 巻 なし
2. 論文標題 The Japanese Business Community as a Diplomatic Asset and the 2014 Thai Coup d'Etat	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 John D Ciorciari and Kiyoteru Tsutsui eds. The Courteous Power: Japan and Southeast Asia in the Indo-Pacific Era	6. 最初と最後の頁 259-291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takeshi Onimaru	4. 巻 なし
2. 論文標題 Itinerary, Revolution, and Port Cities: Comparative Study on Maritime Port Cities as Arenas for Asian Revolutionary Movements	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Shigeru Akita, Hong Liu, and Shiro Momoki (eds.), Changing Dynamics and Mechanisms of Maritime Asia in Comparative Perspectives	6. 最初と最後の頁 213-233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 Rise of “Anglo” Southeast Asian Professionals and its Geopolitical Impact
3. 学会等名 Wilson Center Work in Progress Series, Wilson Center, Washington DC
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 The Rise of Anglo-Southeast Asian Professionals and Geopolitical Impact
3. 学会等名 The Southeast Asia Lecture, Foreign Service Institute (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yusuke Takagi
2. 発表標題 In Search of Strategy: The Economic Transformation and the Role of the Philippine State
3. 学会等名 AAS-in-ASIA Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高木佑輔
2. 発表標題 フィリピンの対中政策の転換 小国の大戦略試論
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Caroline Hau
2. 発表標題 The Afterlives of Maria Clara
3. 学会等名 Inaugural Lecture of the Philippine Social Science Seminar Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Caroline Hau
2. 発表標題 Reading Rights: Defending the Right to Read against Book Banning and Censorship
3. 学会等名 Academics Unite for Democracy and Human Rights (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Caroline S. Hau	4. 発行年 2019年
2. 出版社 University of the Philippines Press	5. 総ページ数 145
3. 書名 Demigods and Monsters Stories	

1. 著者名 石戸光・鈴木絢女編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 281
3. 書名 『グローバル関係学3 多元化する地域統合』	

1. 著者名 Takashi Shiraishi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Boulder	5. 総ページ数 217
3. 書名 Maritime Asia vs. Continental Asia: National Strategies in a Region of Change	

1. 著者名 Takashi Shiraishi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Japan Publishing Industry Foundation for Culture	5. 総ページ数 188
3. 書名 Empire of the Seas: Thinking About Asia	

1. 著者名 Takashi Shiraishi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 NUS Press in association with Kyoto University Press	5. 総ページ数 360
3. 書名 The Phantom World of Digul: Policing as Politics in Colonial Indonesia, 1926-1941	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	相沢 伸広  (Aizawa Nobuhiro)  (10432080)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授   (17102)	
研究分担者	白石 隆  (Shiraishi Takashi)  (40092241)	政策研究大学院大学・政策研究科・名誉教授   (12703)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 絢女  (Suzuki Ayame)  (60610227)	同志社大学・法学部・教授    (34310)	
研究分担者	高木 佑輔  (Takagi Yusuke)  (80741462)	政策研究大学院大学・政策研究科・准教授    (12703)	
研究分担者	鬼丸 武士  (Onimaru Takeshi)  (80402824)	九州大学・比較社会文化研究院・教授    (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International Seminar on Elite Circulation and Networking in Southeast Asia	開催年 2020年～2020年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関